

# ちょっと読んでみませんか(平成三十年正月)

## 第4話『平成三十年今年の言葉』(本源寺副住職 本間健司)

天皇陛下の御退位も決まり、「平成」という元号もあと二年を残すのみになりました。

来年の「平成三十一年」は四月末で終了する予定ですから、まるまる一年「平成」があるのは、今年が最後となります。最後の年こそは、是非とも世界中で「平和が成就する」一年になることを祈るばかりです。

さて、今までも何度かお話ししましたが、皆さんが葬儀や法事などで読むお経＝妙法蓮華經(みょうほうれんげきょう)は、全部で二十八章あり、文字数にすると約7万文字もあります。

本当は、それを全部読んだ方が良いのですが、なかなか時間的にも能力的にも大変だということ、法要では、最も大切な部分である、第二章＝方便品(ほうべんぽん)の一部分と、第十六章＝如来寿量品(にょらいじゅりょうほん)の一部分を読んでいるわけです。

もちろん私達僧侶は、修行中にその7万文字のお経を全て読むわけですが、第二十八章の最後にたどり着いた時には、皆で感動の涙を流してしまうほどでした。

さて、その第二十八章には、最後の章にふさわしく、お釈迦様滅後の遠い未来を生きる者たちに向けて、とても大切なメッセージを語られています。

それは、いかなる時代であっても、次の四箇条を心掛ける者には、私(お釈迦様)はすぐにでもそばに駆け付け、法華經を説き、救いの手を差し伸べます、と宣言されている有り難いお言葉です。それは次の四つです。

### ① 為諸仏護念 (いしよぶつごねん)

—— 諸々の仏様が守ってあげたくなるような素直さ・純粹さを忘れない。

### ② 殖諸徳本 (じきしよとくほん)

—— 日々コツコツと善い行いを積み上げる。

### ③ 入正定聚 (にゆうしようじようじゆ)

—— 自分の信念や想いを一心に持ち続ける。

### ④ 発救一切衆生之心 (ほっくいつしよしん)

—— 自分の心の中にある慈悲の想いに気付き、開かせる。

あえて、覚えやすいように、お経の原文も挙げてみましたがいかがでしょうか？

こんなの全部守るなんて、実践するなんて大変……そう感じられるかも知れません。しかし決して、これらの四箇条を全て完璧に実践しなさいと、お釈迦様はおっしゃられているわけではないのです。

これらの四箇条を、心の片隅・頭の片隅において、

## 「こころがける」

ということが大切だとおっしゃられているのです。

私達もそうですよね。あれこれ完璧にこなしている人よりも、むしろ、迷ったり失敗したりしながらも、それでも諦めずに取り組んでいる人を見た時にこそ、「何とか支えてあげたいな」「助けてあげたいな」と思いませんか？

仏さま、お釈迦様も同じだと思います。

## 「平成三十年 今年の言葉」は、

# 『仏さまに好かれる生き方を』

## 心掛ける』

にしたいと思います。

日蓮聖人は、国に大きな問題が起きる原因を「守りの神々が国を捨ててしまうことにある」ぜんじんしやこん（善神捨国）と述べられました。国の安泰は「平成」ということを考えてみても、私たち一人一人が神仏に好かれるということがとても大切なんですよね。

昨年（平成二十九年）四月に亡くなられました、上智大学名誉教授で作家の渡部昇一氏が、講演会のなかで、

「僕は、神様が救いのハシゴを下ろしてくれるような生き方を心掛けてきた」とおっしゃられていたことが、とても印象に残っています。

キリスト教信者の先生らしい表現ではありますが、これは仏教でも同じことが言えるなど、深く感じ入ったことを覚えていきます。

先ほど書きました法華經第二十八章には、『この人はお釈迦様に頭をなでられるであろう』(是人 為釈迦牟尼仏 手摩其頭)というお言葉もあります。

日々きちんと生きていけば、仏さまが、大きな厚い手で、自分の頭をナデナデして褒めてくれる。そう想像してみるだけで、何だか幸せな気分になりませんか。

まずは、新年の決意を込めて「南無妙法蓮華經！」と元気に唱えるところから始めていきましよう！ **合掌 南無妙法蓮華經**